

グループホーム サンシャイン					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を以前より策定しており事務所及び職員の控室に掲示し、来所者への周知、また、職員会議で各職員への周知を図っている。	「入居者様と生活を楽しみ礼節のある対応を行います」が理念である。言葉遣い等に気を付けながら支援を行っている。職員からは“仕事が楽しい”との声を聞くことが出来た。	職員が楽しく仕事が出来ている事は、入居者にも伝わり、ホームが明るいものとなる。職員の心のゆとりが理念の実践につながると考える。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り大会、敬老大会、もちつき大会に参加。また、月に2回のふれあい喫茶にも参加し、今年度からは食事サービスにも参加している。地域のボランティアにホーム行事に参加してもらい交流している。	自治会に加入し、各種行事に参加している。ボランティアによるホームへの訪問や散歩などで地域とのふれあいは多く、日常的な交流がある。	事業所が地域の一員として多くの行事に参加し、交流しているのが見て取れた。今後も継続し、交流を深められたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特別機会は設けていないが、地域の方と交流したり、運営推進会議などで、ホーム内の出来事を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事、事故報告、研修等を発表し、出席者に様々なご意見をいただき、ケアに活かしている。また、地域の情報を出席者からいただき、地域への参加がしやすい状況である。	大道南連合振興町会長・竹間振興町顧問・大道南老人クラブ連合会会長・民生委員長・地域包括支援センター職員の出席で2か月に1度開催されている。ホームからの報告や出席者からの情報・報告の議事内容である。	ホームでの取り組みを地域の方々や家族に知って頂く良い機会である。家族の出席を得られるように、議事録の送付など試みながら声かけに努力されたい。職員も議事録の閲覧で共有を図られたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	入居者の状況変化があったとき、また、必要に応じ、区役所担当者と連絡を取り合っている。また、運営推進会議には、地域包括支援センターの担当者にも参加してもらい研修会やイベントの情報を得ている。	市との関わりは運営推進会議録を郵送している程度である。区とは生活支援での連絡を取り合っている。	介護保険の保険者である市の職員にホームの実情を見て頂く事は重要な事である。運営推進会議への出席、またホームへも足を運んで頂きたいものである。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	サービス基準を正しく理解し、入居者の安全を守るうえで必要最低限の対応を行っている。外部研修にも参加し、参加した職員が職員会議で報告し全職員に周知している。	安全対策として1階玄関は施錠している。視力障害の方の夜間のトイレ時の対応で、センサーマットについて話題になった。	入居者が出来る事・出来ない事をよく見極め、足りない所を職員が補うという姿勢で支援を願いたい。“すぐ物に頼らない”という事を職員全員で話し合っていきたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、職員会議を利用し研修し、啓発している。また、ニュース、新聞などで取り上げられた事例は、その都度注意を喚起している。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、学ぶ機会が作れていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の際は、ご本人及びご家族に向け説明を行い、理解、納得されたうえ契約し入居いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に事務所前と2Fの2ヶ所に意見箱の設置をしている。	写真入りのホーム便り「サンシャイン便り」を毎月発送し、ホームでの様子を家族に伝えている。家族からは感謝の言葉が寄せられている。ホームに対しての厚い信頼がアンケートから見て取れた。	日頃の支援が家族に安心と信頼を与えている。意見や要望等何でも言ってもらえる関係を今後も大切にされたい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員の意見、提案は随時、傾聴する、場を設けている。	職員の積極的な提案がイベントにも活かされている。「節分の豆まき」や「バレンタインデーのチョコレート作り」は季節行事を盛り上げている。また、足が冷える入居者の為に“こたつ”を床（床暖房）に設置し、活用されている。	所長は職員の提案にすぐ対処し、管理者は職員が悩みなく働けるよう気遣いもみせている。今後もチームワーク良く、支援の充実に向け取り組んでいって欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員のが勤務しやすいように出来る限り要望に応じている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への職員の参加を勧めたり、時には、あらゆる症例にたいして、職員会議を利用し職員間で勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	大阪市GHネットワーク及び東淀川区GH連絡会に参加し、お互いの事業運営の意見を交換し、事業に反映させている。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との初回面談の際に要望を確認している。また、入居後もできる限り、本人の要望がかなえられるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時にご家族からも困っている事、不安なことを確認し、入居後のケアに反映している。何か問題あれば連携を密にとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療関係、地域包括、各福祉事業所などと連携し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とクッキング、家事、地域への活動を共に行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ホームたより（写真つき）をご家族に送り、近況報告を行っている。必要に応じて、電話連絡している時もある。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後に、本人になじみのある、物、場所、人間関係をリサーチし、支援に活かすようにしている。	クリスチャンの学校を卒業した入居者が、何年振りかで教会のクリスマスパーティーに参加した話や、娘さん夫婦が営む喫茶店にコーヒーを飲みに行った話などを伺う事が出来た。	食事中、入居者がふと思い出した記憶を、職員は熱心に探る言葉がけをされていた。今後も馴染みの人や場所、物との途切れない支援で入居者の楽しみを継続してあげて頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者各人の性格、病状を把握したうえで、各入居者が孤立しない様に職員が間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望は出来る限り聞き入れて、日々の生活に反映している。訴えが困難な方には傾聴し理解しようと努力している。	聞くことを中心にして、思いや希望を把握し反映している。	入居者の思いを把握する事は、生活の満足につながる。傾聴を大切に、今後も努められたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居前に必ず家庭訪問し、生活環境、人間関係、また、サービス利用等の把握に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、担当を決め、ケース記録のを行い、職員間で情報共有をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医・家族参加のケース会議は開けていないが、それぞれに意見を伺い、ケア会議を職員間で必要に応じて開き、日々のケアに活かしている。モニタリングは毎月行っている。	所長・主任・職員・計画作成担当者でサービス担当者会議を開き、医師・看護師・家族の意見や要望を交え、介護計画を作成している。職員間で共有され、支援に活かされている。	入居者が毎日目標を持って楽しく過ごせるよう、其々に即した介護計画が作成される事を望む。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録は担当者を決め、行っている。特記事項は申し送りを随時行っている。介護方法について職員会議でも検討し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、アセスメント行い、その入居者にあった支援ができるように、心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、地域行事、散歩などを通じ地域資源の把握、活用は、可能な範囲で、できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も入居者、ご家族のご希望の主治医で継続治療できるように、連携を取り、継続した支援を行っている。	協力医療機関である精神科医・看護師による週2回の訪問、歯科医の訪問もある。リハビリ目的で6人の入居者がデイケア利用、送迎支援している。	認知症専門医による生活援助から周辺症状まで相談でき、治療薬の副作用の把握も行われており、適切な連携が継続されることに期待する。

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	ホーム内には看護師はいないが、週 2 回の訪問看護で看護師の来所があり、緊急時は連絡相談できるように連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者との情報交換については、嘱託医とともに、連携が取れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化時の対応については、指針を作成しており、契約時に説明を行っている。	看取りの経験はない。これまで特養、病院搬送、搬送先での死亡、ホスピス送りをしてきた。今後、本人、家族の希望を聞いていきたい。	現在 9 2 歳になる入居者がおられ食事時間にいろいろ会話される姿は信頼しきって安心した表情であった。すっかり馴染んで生活されている様子が伝わる。最期を過ごされる環境づくりに踏み出す支援を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員へは日頃から事故発生時の対応について、朝礼、職員会議を利用し、周知している。また応急手当、A E D の使用方法是消防署職員から年に 2 回の指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでは年間 2 回の消防訓練を実施しているが、地域との連携は築けていない。	昼間帯に、1 階事業所と合同で火災想定訓練を行っている。A E D 完備、倉庫に水・非常食等備蓄している。	災害時の避難訓練は入居者も含めて避難経路の確認は職員にとっても重要である。2 階から 1 階までの誘導など、夜間帯に向けても近隣住民の応援も要請し訓練を積まれない。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、言葉がけを適切に行えるように心がけている。適切でないときはその都度、指導している。	朝礼、申し送りノート、パソコン入力された情報を共有するなど、職員会議で確認するようにしている。	1人ひとりの情報が活かされているか、入居者に過度な緊張を与える機会をつくらない支援を継続されたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々アセスメント行い、様々な生活場面で自己決定ができる様に働きかけ、勧めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースで過ごして頂けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り、服装、身だしなみは、本人の意向を聞き入れるように心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回の、クッキングデイではほとんどの方が準備から片付けまで参加できている。日々の食事では一部の方が参加している。	ご飯・味噌汁は厨房で準備され、副食はカロリー計算されたものが給食会社から届けられている。クッキングディは入居者のリクエストで決めている。誕生日のケーキデコレーション作りは入居者の楽しみである。	訪問時、米飯にわかめ・しらすが入っていた。配膳を手伝う入居者の自然な動きがあり、笑顔の会話もあった。今後共、毎月楽しみにしている入居者のリクエストに応えられることを願う。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は日々チェックを行い、状態を把握している。主治医から指示が出ている方に関しては、その方に応じた支援を行い日々アセスメントしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて、毎食後、職員が声かけ、チェック、介助を行い、また、1週間に1回の訪問歯科で往診を受け、口腔衛生指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々に排泄の状態をチェックし、その方に応じたタイミングで声かけ、介助しトイレに誘導している。	見守りだけの自立できている入居者が多く、具体的な支援を必要とする人は少数である。夜間に、安心のために紙パンツ利用する入居者もいる。	排泄の自立が継続されることで他の生活にも積極的になると考えられる。居室での過ごし方にも自己主張が感じられた。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り多めに水分補給を勧める、また、散歩、体操などを行っている。おやつなどでも繊維質のあるものを出すこともあり。場合によって、腹部マッサージを行う時もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日、時間帯はだいたい決まっているが、その中で、本人の希望を聞き入れてケアを行っている。	入浴時温度差に気を付けて調整温度確認。自立入浴できる入居者もいる。同性介助を基本に季節に応じて菖蒲・ゆず・温泉で楽しんでいただいている。	3大介助の一つである入浴は入居者と最も身近な距離感となり、心身の状態を把握する機会になる。信頼関係を築く支援に繋がるよう期待する。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り、昼間は散歩などを利用し活動するように心がけ、夜間は安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの指導に基づき、薬について理解し、服薬の支援を行っている。誤薬が無いように、包材に記載済みの名前・日時等チェックし、服薬後もチェックシートを利用して、職員間で連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントで生活歴、習慣を把握し、入居後も継続して行えるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	特別外出を企画し、本人の食べたいものや行きたいところを、あらかじめリサーチし、職員付き添いのもと実施している。他にも、買い物、散歩などできる限り希望に添えるように支援している。	日常的に行きたいところの把握に心掛け、実行に移している。花壇の水やりや屋上での菜園等外気に触れる機会も多い。	ユニークな計画、希望を尊重する支援は入居者に大きな期待、喜びの機会となっている様である。フロアで過ごす雰囲気も明るい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本にお金は所持されていないが、一部の方は小銭を持っている方がおられ、その方の小銭については、必要に応じて本人が使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば行う検討をするが、現在希望される方はいらっしゃらない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な居住空間を得られるように、常に気配りし、危険な箇所や不具合があれば、早急に手当を行うようにしている。季節感が出るような雰囲気作りにも心がけている。今年度の冬からコタツを導入する。	テーブルの上にはティッシュ・チリ箱が置かれ手の届くところに生活品があり生活感がある。足が冷たい人にホームコタツを提供し、座って昼食を囲んでいる。	全体に落ち着いた雰囲気で見やすい印象だった。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは入居者同士で過ごせ、居室に戻れば、独りになれる空間が確保できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある物を置き、居心地よく過ごして頂けるように、工夫している。	各居室には、大きな文字のフルネーム表札がある。整理ダンス・ベッド以外は使い慣れた物が持ち込まれている。掃除、整理整頓もできることは入居者が行なっている。	視力障害のある方が夜間移動で事故防止の検討が行われていた。それぞれの入居者の生活が感じられる居室だった。プライバシーを尊重する支援を続けられたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり。各所に手すりが付いている。各居室にはネームを貼り、トイレに表示をしたりしてわかりやすくしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない